



【前回おでかけストーリー】

ロロナ禪による臨時休室からの再開室を経て、SIAF ラウンジでは、オンラインプログラムの定期開催や動画コンテンツの制作に取り組むことになった。やがてはアーカイブ機能を充実させねぐく、これまでのSIAFで撮影された写真データの整理及び公開に着手し始めた。やがて 2021 年度の冬に、次回 SIAF 2024 の新テーマレクターが発表されると、徐々に次の芸術祭に向けた機運が高まつていった。

2022 年一四。次なる札幌国際芸術祭、SIAF 2024 のトライレクターとして小川秀明氏が決まり、実行委員会やそのよひな芸術祭にするのか検討が始まった。そのよひな状況の中、SIAF ラウンジはアーカイブ機能を強化すべく、昨年度に整理した、過去の SIAF の記録写真活用に、その年の春から注力していった。

昨年度から続く毎月一回のホノリハンドルメント「SIAF ラウンジホノリハンドルメント」でも SIAF の人物アーカイブを構築することに重きをねぎ、これまでの SIAF、とつねに札幌市資料館を会場として展開したプロジェクト、即ち「ログトーム」に関わったアートイースト、ディレクター、マーク・イネーターの方々をゲストとして招き、お話を伺つた。ゲストへの事前イベントコードでは、名々の視点から見た SIAF や札幌の魅力、初の冬開催しながら SIAF 2024 に向けた期待なども聞くことができた。

回りく、継続した取り組みでつなげば、本編で述べた「回りく」を巡つた、「コーナーパー」の「sakusaku」である。来年から SIAF の「sakusaku」設置の経緯について度々尋ねられることが多っかけに制作を始め、同時に、3 年に一度しかなら SIAF の情報を常時伝えるために、本体とは別に行つた SIAF ラウンジ独自の取り組みをアーカイブする意味でも制作を続けた。

そこで、SIAF の写真アーカイブを活用した新たな特徴的取り組みとして、壁面掲示板を使った 3 回の企画展示を挙げるといふことができる。「SIAF の会場」となった場所、「子ども向けプログラム」、「札幌市資料館で開催したワークのプロジェクト」と名付けられた「アーティストのプロジェクト」を各回テーマを設定し、掲示した写真に写つてある場所、写つてある作品の名前などを並べても心の選択トイド形式を採用し、およそ 3 ヶ月毎に展示替えをして、一年を通じて実施した。これはロロナ禪でスタッフと来室者とのコミュニケーションが少なくなつてしまつた中、少しずつ SIAF のことを知りても心つきかけが作れたからとも想ひてスタートした企画であつたのだが、写真を見て自分で考えたり、答えてたりする要素を加えたところによつて、時には複数人で語り合つたり、子どもから大人までチャレンジしている様子が見受けられるなど、来室者のみなさんには楽しめたから SIAF の情報に触れても頂くことができるようだ。新たな興味・関心層の入り口の設営として効果的であつたと感づ。

またカワハラ、過去の SIAF の開催トートマントラ「アーティストスタッフ 杉本直貴

SIAFラウンジスタッフが オンラインで「自分だけの雪の結晶」をつくろう

をやってみた。

第4弾!
数量限定ドリンク
SIAFの
開催テーマを
モチーフにした



LAST SNOW はじまりの雪

Caféの
ちょっと
いい話?

つぎの札幌国際芸術祭（SIAF2024）は初めての冬開催。SIAFラウンジでは2024年のテーマ「LAST SNOW」をイメージした創作ドリンクを販売しています。今回は、約7年ぶりのアルコールメニュー。黒ビール（ギネス）に甘い香りのホワイトチョコレートリキュールをお好みで入れる飲み方で、見ためと味の変化を楽しめるようにしました。

1冊目は『ゆきのけっしょ』。一つひと回りのない多様な雪の結晶の写真が納められた写真絵本になります。雪がどのものよりも少なくて私たちのもとへ降つてくるのか、千尋にもわからやよく書かれています。SIAF2024のオリジナルの雪の結晶がシンボルマークになりますが、オハイオで自分で自分だけの雪の結晶が作れるプログラムも開催されています。今年の冬は、雪の結晶を今一度よく観察してみると良じかもしませんね。

2冊目は『地球温暖化で雪は減るのか増えるのか問題』。近年、「地球温暖化」や「気候変動」という言葉をよく聞くようになりました。本書では、研究者の著者がこれまでの日本の雪がどのように変化していくのか解説しています。札幌に住んでみると雪が降るとは当たり前のことにも思えてしおりますが、未来はどうなつていくのでしょうか。本書はこれから日本の・札幌の姿を想像するきっかけになるかもしれません。

今回は「SIAF2024」と題して「1冊の本を紹介しました。冬期開催となるSIAF2024。雪をはじめとした札幌の地域性がどのように芸術祭に組み込まれていくか想像しながら、いかにも本をやる手に取ってみてください。

2023年7月よりSIAF2024のオリジナルコンテンツの一つ、「オンラインで自分だけの雪の結晶をつくろう」がWebサイト上で公開されています。これはアーティストユニット「フジ森」が開発したウェブアプリケーションで、誰でも簡単にプログラミングを使ってオリジナルの雪の結晶を制作できるというもの。「プログラミング」と聞くと、パソコンに強い人じゃないと・・・敬遠されがちですが、小学校でもプログラミングの授業が行われたり、今ではだいぶ身近になっていますよね。

私も初心者ですが、このアプリケーションでは、作り方の手順や画面の説明もあり、点を打つ座標を命令する言葉「point」と、その点を六角形に展開するボタンをタップするだけで雪の結晶らしい图形ができる、こんなに簡単なのかと驚きました。今回は応用として色を変える命令の「stroke」を使って、ペリルグリーンの色に着色もしてみましたよ。他にも太さ・大きさを変えたり、線が引けたりもするので、いろいろと挑戦したくなりました。新しい技術が身に付く感覚もあり、プログラミング初心者という方こそ、ぜひ体験してみてくださいね。



SIAFラウンジとわたし。

2015年4月28日。SIAFラウンジがオープンした日は、私が北海道に飛び込んで引っ越してきた日と同じである。不思議なご縁から、SIAFラウンジのスタッフとして、今までここに登場してきた各レジェンドの皆さんと一緒にコーヒーを淹れ、カフェメニューやイベントを考え、時には叱咤激励を受けつつ、SIAFのコーヒーディネーターとしても毎日奔走していました。コーヒーを1杯ゆっくり飲みながら本を読まれる常連さんや、大通公園のバラの写真を撮ってプレゼントしてくれたおじさん、元気か?といつも声をかけてくれる資料館のスタッフの方々。みんな家族のように、SIAFラウンジは変わらず西13丁目にあるホッと落ち着く実家です。

元SIAFラウンジスタッフ 論間のり子

「SIAF2024」と題して 第10回テーマ



小杉みのり著、武田康男監修・写真『ゆきのけっしょ』
(岩崎書店)



川瀬宏明著『地球温暖化で雪は減るのか増えるのか問題』(ベレ出版)